会 議 録

会議の名称	第1回川越市オーバーツーリズム対策懇談会
開催日時	令和6年4月25日(木) 16時00分 開会 ・ 18時00分 閉会
開催場所	第1・5委員会室
出席者	別紙参照
事務局(観光課)職員氏名	課長 榎本 学、副課長、関根 英昭、館長 山口 淳 主幹 武田 和典、副主幹 徳田 将史、主査 新井 努 主任 中村 翔大、主事 小林 祥大、主事 松浦 佳世
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介(出席委員) 4 議題 (1) 川越市におけるオーバーツーリズム対策事業について 5 その他 6 閉会
配布資料	会場図 出席者名簿 次第 資料1 観光庁プレスリリース資料 資料2 川越市におけるオーバーツーリズム対策事業概要 資料3 連携先の同意書

議 事 の 経 過

議題・発言内容・決定事項

議事は、会議次第に沿って進行された。

討議の概要は、以下のとおり。

議題

(1) 川越市におけるオーバーツーリズム対策事業について

資料1「観光庁プレスリリース資料」を用いて、オーバーツーリズムに関する補助事業の概要を説明。

資料2「川越市におけるオーバーツーリズム対策事業概要」を用いて、本市のオーバーツーリズムの現状、これまでの取り組み、今後の取り組みに関する方向性、今後のスケジュールを説明

～以下、主な質疑応答～

(委員)「説明いただいたスケジュールによりますと、4月に交付決定がされて、事業開始から1月の事業終了までが7ヶ月。オーバーツーリズム対策について、最初にテーマを出されておりましたが、この7ヶ月でどこを着地点(ゴール)とするのか。あまりにも期間が短いので、本当にどれだけの成果(成果物)が出るのか。このことについて、お聞かせください。」

(事務局・関係課)「非常にスケジュール的にはタイトになっております。スキームといたしましては、2月までに精算を完了しないと、補助金が交付されないという形になっておりますので、このようなスケジュールを組んでいます。成果については、短期的なものと、長期にならないと結果が出ないものというものが混在しています。

したがって、この我々の考えている事業の中で、短期的なものではできるだけ早く成果を出してオーバーツーリズムの解決を図りたいと考えています。ただし時間がかかるものにつきましては、この事業をきっかけとして長期的に解決に向けて取り組んでいきたいというふうに考えています。」

(委員)「それでは7ヶ月で終わりではなく、この先も続けていくという認識でよろしいでしょうか。そうでないと、7ヶ月でオーバーツーリズムについて対策をしまして終わってしまうと、せっかくこれだけの方が集まっていたのですから、私は、最終的には条例等を作って、川越市内の方だけでなく、外から来ている事業者に対しても、ある程度強制的にお願いできるよう

な、そこまで本来はやらなくてはならないと私自身は思っていましたので、7ヶ月での着地というのがどうかと思った次第でございます。ぜひこれを機会として、そういう位置づけの会議であればいいと思います。」

(事務局・関係課)「資料2の17ページをご覧ください。我々が考えているオーバーツーリズム対策としては、この形が全体像ですけれども、今年度の観光庁から出ている補助事業は、あくまでも今年度中に完了させるべきものとなっております。具体的な対策案のところに書いてあるのは、今年度に限った内容という形で書かせていただいておりますが、全体を通して単年度で終了できるものは、ほぼないと認識しています。

従いまして今後について、これをきっかけに我々も本格的に取り組んでいきたいというところです。この懇談会も、観光庁の補助事業の枠組みの中で、組織させていただいています。来年度以降、どのようにしていくかは、これから考えるべきところで、皆様にご意見を伺う等、継続的に行っていくことを考えています。」

(委員)「3点質問(意見)があります。

まず一つ目が浅草や鎌倉に続いて川越が選ばれて、先駆的な考えを川越で起こしていけば、それがPRになると思うので、ありきたりの政策でない方が絶対にいいと思います。今年しかない事業かもしれませんが、補助金を使わせていただけるというのであれば、もう少し飛び抜けた政策を考えてもいいのではと思います。この中で、今考えている川越市の目玉事業がありましたら教えていただきたい。

二つ目が、テーマ1「安全安心な歩行環境の確保」内の「適切な交通規制等のあり方」について、川越市が今考える適切なあり方について教えていただきたい。

三つ目が、テーマ4「観光客に対するマナー啓発」でのゴミのポイ捨て等のゴミ対策について、これは視点が違うとされていて、我々商店の責任におけるゴミだと思っています。観光客に来ていただいて、それぞれの個人のモラルもありますが、そこを啓発しても、どうにもならないのではと、我々がゴミを出すように仕向けているのであれば、それを捨てる場所を作る等、店側の問題部分が大きいと思います。これは意見になりますが、もう少し我々も考えなくてはいけないかと思っております。」

(事務局・関係課)「順番にお答えします。まず1点目の先駆的な取り組みということで、川越へのPRに繋げるというご意見だったかと思いますが、我々も庁内において、そういった視点で、様々な検討をして、いろいろ考えているところです。私の中での結論としては、先駆的なものというのは、おそらくこれまでも地域の中でも様々な取り組まれてきたのだと思いますし、市でも

取り組んできたのだと思います。これまでも、取り組んではいるもののまだ課題が残るところがあったと思うのですけれども、そういった至らなかった部分であるとか、積み残した部分のようなものをしっかりと捉え直して、次の取り組みに繋げていくことの連続の中に、先駆的な取り組みに繋がっていくものがあるのではないか思っています、今回我々としても、そういった過去の取り組みの反省を踏まえて対策をまとめていきたいと思っています。

また、皆様の中でも、これまでこういうことをやってきたけれども、こういうことがうまくいかなかった超えなければいけないハードルが、こういうところにあるのだといったところを、ぜひ本日もしくは今後の議論の中でご意見をいただきまして、今後の取り組みに反映させていただくことで先駆的と言えるような取り組みに繋いでいくことができるのではと思っていますので、そういった取り組みとしての磨き上げを、皆様と一緒に考えたいと思っています。

続いて目玉の取り組みということで、冒頭でも申し上げさせていただきましたけれども、北部市街地の一番の懸案事項として、交通問題があると思います。こちら先ほど委員からのご指摘にもありましたけれども一朝一夕に解決するものではなく、解決していくために、様々な取り組みをしていかなければいけないという状況かと考えていますが、中心的な懸案事項という意味では、やはり交通問題であると考えています。

続いて適切な交通規制ということで、どこまでのことを考えているかにつきましては、冒頭の説明の中でもありましたけれども、これまでも地元の方と検討させていただいて、平成23年に一方通行化、歩行者天国等の提言をいただいているわけですが、それに伴う周辺の道路環境への負荷といったことが、皆様にとっては大変懸念されるということで、受け入れられなかったという中では、やはりその地域の方がどのような交通規制、交通のあり方を望まれるのかといったことは丁寧に議論させていただかなければいけないと思っていますので、今、市として、考えていることを申し上げるのはやはり適切ではないと考えております。

あと、直接の担当ではないですが、最後の観光マナーについて、コメントさせていただきたいと思います。商店の責任であるとおっしゃっていただきましたが、まさにその通りといいますか、市の資料の方でも商店街と協議を図りながら、ゴミのポイ捨て抑制を図るというふうにまとめさせていただいております。

今回そのようなコメントをいただいたということは、大変力強い、心強いと思ったところです。ぜひ商店街の皆様中心になりながら、市としても一緒にやらせていただきたいという趣旨で、記載させていただいているところです。」

(事務局・関係課)「マナーの関係について、大変ありがたいご発言だったと

捉えています。やはり最近の傾向では、インバウンドの方々が非常に増えてきているということがあるかと思います。そういった方々は、自分にとっては普通のことで、悪いことをしている自覚がないが、日本の環境や常識からすると、マナー違反になることもあるかと思います。そういった部分があるようなものを何か作っていただけるとかと思っております。その他にも、ゴミの関係では商店街の皆様、独自の取り組みをやっていただいているというのは承知しているところですが、様々なアイデアをいただき、我々としても、しっかりと支援できるかというところで考えていきたいと思っております。また、協力体制を作ってやっていくというところの方向性を持って臨みたいと思っております。」

(委員)「ありがとうございました。交通規制は、我々も、今いいタイミングで議論ができるかなと地元住民の 1 人として思っていますから、議論させていただければと思っています。」

あとは、様々な取り組みがあるかと思うのですが、お金を使い切るのではなく、大事に使っていかなくてはならないと思っております。目玉の取り組みは難しいと思うかもしれませんが、例えば中心市街地ばかりに目が行きがちですが分散というところを考えれば、川越市全体を考えて魅力があるところもたくさんあるので、そういったところも含めて考えるのが、得策なのかなと個人的には考えています。」

(委員)「オーバーツーリズム対策懇談会は、補助金をどう使っていくかの懇談会という認識でよろしいのでしょうか。それが一点目。それと、令和 6 年度のスケジュールですので、令和 7 年度以降のことも考えているのか。この懇談会を、補助金をどう使うかの確認会で終わらせて欲しくないというのの一つです。」

加えて、具体的対策が補助事業という認識でよろしいのでしょうか。この事業をやるのは決まっています、どうですかという話をすればいいのか。私達が今日何を最終的に考えて、何を返事すればいいのか、今の段階でわからなかったもので、この点についてもお聞かせください。」

(事務局・関係課)「この懇談会が、補助金を使うためのものなのかという部分に関しては、私共が今回のオーバーツーリズム対策を考えた時に、この補助金から入って考えを進めていったというわけでは決してございません。」

16、17 ページで、現状と課題の整理を行い、そのためにはどのような形で対策を進めていくかのテーマ設定をして、17 ページにまとめています。

ここに記載されていること以外にも関連する様々な対策があると思っております。ここには今年度できることをまとめています。決してこれで終わりではなく、これをきっかけとして、継続的に協議を進めて、できる限りのことをや

っていき、最終的にはオーバーツーリズム状態を解消していくということを考えて、今回、市の案として出させていただいております。

ですから、例えば、これはもう少しこういうふうにした方がいい、こういうテーマだったらこんなやり方もあるといったことも提案いただければ検討させていただきますので、そのような形でのご意見をいただければと思っています。」

(委員)「もう1点、具体的対策とありますが、もう少し具体的に教えていただきたい。この具体的な対策というところが今年度やろうとしていることなのですか。」

(事務局・関係課)「今回このような書き方にまとめているのは、この方が、皆様からのご意見を伺いやすいかと思った部分があるからというところもあります。順番に主だったものについて、ご説明をさせていただきます。」

※この後、配布資料 P18~22 の「具体的な対策案」について詳細を説明

(委員)「生活の向上というところですが、商店街は呼ばれていますが、地域の自治会の会長等は今日呼ばれていませんが、その件についてはいかがでしょうか。」

(事務局・関係課)「24 ページをご覧くださいと思います。本日第1回懇談会を開催し、5月8日に地域の自治会長等も参加する北部市街地自治会交通対策連絡協議会の開催を予定しています。こちらがこれまでも主に交通関係の議論をさせていただいてきた場になりまして、そちらで本日いただいたご意見を踏まえて、もう少し具体的な取り組み案について、ご意見をいただきたいと思っています。」

(委員)「一つ、例えばゴミ問題に対応するにしても、やはりゴミ箱を置くこと、ゴミの回収をすること、情報発信をすること、これらは全てコストがかかるものだと思います。予算がないと、現実的には出来ないのです、例えば今回の補助金が終わった後、その後は自立でやっていかなければいけないというふうになると、これからは、いかにお金を生み出すか、要するにマネタイズというところが、絶対必要ではないかと思います。そういう意味では、この7ヶ月間に、専門家を入れるなり、あるいは他の地域での成功事例を参考にしながら、お金を課金していく。京都では、宿泊税が40億円程あるわけで、トイレを作ったりして、環境が良くなるということで納得していただけてますけれど、川越には温泉もないので、入湯税とかそういう原資がない。例えば、入場規制とかそういうのでやるのか、そういったものを決めるのであれ

ば、そこに自治会等、地域の方の協力がなければできない話ですので、この7ヶ月の間に、マネタイズというお金を生み出す仕組みを作る、考えることが現実的でないかと思えます。」

(事務局・関係課)「17 ページの一番下にテーマ6「負担の適正化」と挙げさせていただいています。まさに委員にご指摘いただいた通り、これから持続可能な観光行政を推進していく中で、観光に関することとしては、観光客に対する対策を講じるのに、市民の税金を使うばかりでいいのかというご意見があります。そういった部分を考慮すると、観光客の方にも一定の負担をしていただくような仕組みがないかどうかということで、これについて庁内では検討するという話になっています。そういった部分の検討状況等も含めて、皆様にもご意見をいただきながら、共有できればと思っています。」

(委員)「分散化に興味を持っていて、郊外に目をつけたらいいのではないかと、氷川神社だと近すぎて分散化に繋がらないかと思っていて、伊佐沼や、例えば角栄商店街であったりとか、実は昭和レトロの風情があって逆に面白かったりする可能性もあるので、持続可能という視点で考えると、持続可能なシステムを作り上げるのが今回の補助金の使い道として良いのではないかと。例えば、郊外では、農業も盛んな地域がありますし、いろいろな魅力、いろいろな祭りも各地域であったりだとかで、そういった魅力が実はあるというところに視点を置いて、その方々が、受け入れたいという考えがあれば、例えばプレゼンをして、商店街でこのような取り組みをして、バスで誘致をして、観光客に楽しんでもらう等の、各商店街単位でプレゼンをして誘致をしてもらうようなシステムを考えたり、何かしらソフト面の部分で、そういった持続可能な考え方ができるようなシステムを、このタイミングで、このお金を使ってできることもあるのではと思った次第で、意見を述べさせていただきました。」

(委員)「交通の関係で様々な目指す姿、取り組む内容をお聞きすると、どちらかという歩行者を優先したまちづくりを考えているのか、あるいは共存を考えているのか、その辺りの考えを現時点で答えられる範囲でご意見いただければと思います。」

(事務局・関係課)「このオーバーツーリズム対策というのが、地域住民の生活環境、生活交通の維持向上にも目配りしながら、観光振興を図っていくという考え方が基本としてあると理解しておりまして、やはり生活環境、生活交通への配慮といった時には、その周辺で住んでいる方にとっての移動への配慮も十分に目配りしながら考えていかなければいけないと思っておりますので、それができるだけ両立し、納得していただけるような形での交通対策

を考えていかななくてはいけないと思っています。」

(委員)「素朴な質問なのですがすけれども、8000万円の補助があつて1億2000万円使われる予定だと思つたのですがすけれども、その取り組み事業の中で、私は店を営んでいるので、整理券システム等の導入支援というところがキラリと光つて見えまして、もしこの導入にお金を使われるのであれば、各商店に導入するのにお金も人もかかるので躊躇しているところが割とあると思つたんですけど、こういった取り組みで公募とかがあつて補助すると案内が出て、小さな商店も整理券の導入支援で、実は行列が出来ているところだけでなく、出来ていないところでも周知するチャンスがあるのかと思ひまして、もしそういった予定があるのであれば、早めに教えていただくと自分のスケジュールに入れられたり、お金の使い方だとかが考えられるので、そういった計画はあるのでしょうか。」

(事務局・関係課)「まだそこまでは詰まっております。歩行者の空間を確保するためには、行列を解消したいというところからの発想なのですがすけれども、そういった中で、整理券システムが1機どれだけの費用なのか、そのうちのどれだけを支援して、何台ぐらい入れられそうか。その辺も含めて考えたときに、今回は何店舗支援ができそうなのかということもありますので、その上で、どのような形で皆様にお示しをして、手を挙げていただくかというところも含めて、今後考えていきたいと思っています。」

以上。